

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（子ども教室）

「国語力をアップさせよう！キッズ朗読教室」を開催しました。



令和2年8月7日金曜日に、朗読・朗誦インストラクターの宇都宮啓子さんを講師にお迎えし、小・中学生を対象に「国語力をアップさせよう！キッズ朗読教室」を開催しました。

今回は、小学1年から4年生の6名が参加しました。

講師が「これ、何か知ってる？」と子どもたちに『奉公さん』を見せますが、残念ながら知ってる子はいませんでした。そして「これは、宮内フサさんが100歳の時につくった奉公さんです。」と説明してくれました。続いて、お姫様を疫病から守った奉公さん誕生についての言い伝えのお話を朗読してくださいました。

それから、みんなの前で自分の名前の紹介を一人一人行いました。そして、あらいたけこさんの詩「あいうえお」をみんなで一緒に声を出して読んでみました。なかなか、声が出ない子もいたので、演劇での発声練習の定番、北原白秋の「五十音」を講師に続いて声に出してみました。「水馬赤いな あいうえお」、「浮き藻に 小蝦も 泳いでる」、「柿の木、栗の木 かきくけこ」「啄木鳥 こつこつ 枯れ櫓」・・・

続いて藤田圭雄さんの「早口ことば」、谷川俊太郎さんの「かつば」、「いるか」の詩などを一緒に声を出して読みました。どれもリズム感があって音楽のように楽しめる詩でした。

続いて紙芝居を朗読してくださいました。杉山亮さんの「かつば」、河童の絵がおどろおどろしい絵でした。新美南吉さんの「ごんぎつね」小学校の国語で習うので、同伴したお母さんも懐かしかったのでは。遠山昭雄さんの「どっかーん」花火大会をテーマにした作品。花火があがるたびに一緒に「どっかーん」と声に出してみました。講師はそれぞれのその役になりきって声を変えてお話しくださるので、子どもたちも保護者の方もすっかり聞き入りました。

最後に「つけたしことば」を教えてくださいました。

「何か用か 9日、10日」、「大丈夫かい 平気の平左衛門」、「結構毛だらけ、猫灰だらけ」、「驚き桃の木、山椒の木」、「すみま千年 亀は万年」など。言い回しがおもしろく、リズム感があるので、子どもたちは面白がって講師の後に続いて声に出していました。



講師より、子どもたちに講座を受けてみての感想を聞いてみると。「はじめは何するかわからなかったから心配だったけど、面白かった。」「早口言葉は難しかった。」などの感想がありました。今回の講座を通して言葉を聞いたり、声に出したり、言葉遊びなどで日本語の豊かさを少しでも実感できたのではないのでしょうか。